実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■活動概要

助成年度	令和 7 年度
助成団体	東京都
事業細目名	国際競技大会開催
事業名	デフリンピック開催支援事業
助成金額	1,920,000,000 円

令和 7 年度国際大会競技大会開催助成を活用した「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025」の実施状況について調査を行いました。

本大会はきこえない・きこえにくいデフアスリートを対象とした国際スポーツ大会であり、今年で 100 周年と歴史ある大会です。また、日本においては初めての開催となったため、記念すべき大会となりました。

競技数は 21 競技、種目数は 209 種目と細かく分かれており、会場は東京体育館・駒沢オリンピック公園総合運動場をはじめ、全 21 会場で大会が行われました。

大会終了後の集計では、選手 2,943 人（令和 8 年 1 月 30 日時点）、ボランティア 2,959 人が参加しました。また、来場者数は約 33 万人で当初の予定を大幅に上回ることになりました。

来場者数の増加により会場によっては入場制限があった時間帯もあり、デフリンピックのホームページで混雑状況がリアルタイムで掲載されているため、入場できる会場を確認し観戦に向かう方もいたようです。

大会の特徴としては国際手話を活用してコミュニケーションを図るほかにも、リアルタイムで会場のスクリーンに試合状況を表示したり、音声を多言語のテキストで表示する透明ディスプレイを活用したりするなど、選手のみならずきこえない・きこえにくい人の観戦にも考慮し、視覚で情報を伝えられるようにしていました。

また、競技によっては、例えば"笛"と併せて"旗"で情報を伝達するなどの工夫が行われており、スピード感あふれる選手のプレイを見ることが出来ました。

■助成の意義

国際的なスポーツイベントの日本開催であり、会場に多くの人が集まり、大会期間中、不測の事態が起こる可能性もある中、各会場における競技会場運営、選手・関係者の競技会場からの輸送・警備など様々なサービスを充実することができたとのことです。

また、デフリンピックの歴史・競技の説明及び日本手話言語と国際手話の違い等の様々な情報を掲載したガイド作成をすることができ、より深くデフリンピックを知っていただく一助となったとのことです。

■事業効果を高めるための取り組み

本大会に関するチラシやポスター等の広告物を作成し都営施設や駅構内に設置したり、SNS を

利用し情報発信を定期的に行ったりするなど大会を周知してもらうための工夫を行ったそうです。

また、ホームページも日々更新し、いつでも新しい情報が入手できるよう、誰でも興味が持てるよう充実したものになっていました。

■その他

安全対策としては、AED の設置に加えて、会場によっては医師、看護師、救急救命士等が常駐していたそうです。

また、きこえない・きこえにくい人への救護に対応するため、指さし確認ボード、翻訳機等を用いて対応を行っていたそうです。

会場運営においては消防・避難計画を検討するにあたり、きこえない・きこえにくい人が参加、観戦することを前提に火災時の非常ベルや非常放送等に気づかない懸念があることを考慮し、誰もが安全に避難誘導できるよう配慮、工夫したそうです。

■所感

今回、沢山の子ども達が観戦しているところを見ることができました。日本手話言語と国際手話があること、観戦で手話言語を使って応援すること、デフスポーツならではの見どころを知ることができた大きな意義がある大会であったと感じます。

入場料無料ということもあり、本当に多くの方が本大会の観戦に訪れることができ、様々な思い出ができた素晴らしい大会でした。このような大きな大会を開催することは、私たちでは知ることができない苦労があるかと思いますが、次回どのような感動に出会えるか、今後の活動に沢山の方々が期待していることと思います。

この大会開催を機にデフリンピック・ムーブメントとして、デフスポーツやろう者の文化への理解が促進され、障害のある人とない人との共生社会づくりの意識が広まっていくことを期待します。

（令和 7 年 11 月 19 日往査）

（写真）東京 2025 デフリンピックの様子（※写真提供：東京都）



